



## 大手前短期大学の 教育課程を検証する

広がるカリキュラム、集束する教育

大手前短期大学ライフデザイン総合学科教授 / 学科長  
高澤 圭一

大手前短期大学ライフデザイン総合学科は、今年平成22年に7回目の新入生316名を迎えました。短期大学における厳しい環境下では、志願者および入学人数の推移は毎年大変気になるところです。今年度は昨年度と全くの同数でした。増えもしなければ減りもしないという結果です。喜びは無いけれど安堵から始まった新学期でした。

冒頭から入学人数の話で、教育者ではなく経営者のような話ですが、学生をしっかりと集めることは教育機関にとって根本的な問題だと考えています。もう10年位前のことですが、大学の定員割れの問題が取りざたされた折に、ある国立大学長の言葉に「どんな名門校であっても、学生が集まらなくなれば、社会的ニーズを喪失し教育機関としての使命を終えたことになる。」とありました。どうすれば社会的ニーズを確保し永続的な教育機関でありえるのか、それが本学の教育課程を考える時いつも目前に現れる命題です。

次ページの図を見ていただくと、短期大学の置かれた厳しい環境と、それに対し本学が健闘していることがご理解いただけると思います。定員割れを起こさずしっかりと入学者を確保するため、毎年短期大学は教育課程を検討し改善しています。その推移の概要、そしてこれからの課題を記し短期大学の教育課程の検証とします。

始まりは「地域総合科学科」への改組転換

「地域総合科学科」とは、日本私立短期大学協会が提唱した新しい短期大学のコンセプトです。特徴としては、特定の分野に限定せず多彩な授業科目

## [大手前短期大学 入学者の推移]

入試年度 (平成)	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
学科名称	生活文化学科	ライフデザイン総合学科						
入学者数	250名	294名	312名	288名	324名	321名	316名	316名
定員	295名	250名						
短期大学の 入学者数と (進学率)	11.3万人 (7.7%)	10.6万人 (7.5%)	9.9万人 (7.3%)	9.0万人 (6.7%)	8.4万人 (6.5%)	7.7万人 (6.3%)	7.3万人 (6.1%)	未発表
18歳人口	146万人	141万人	137万人	133万人	130万人	124万人	121万人	122万人

(下2段の数値は文部科学省：学校基本調査からの引用で詳細は切り捨て)

を開講する 柔軟な選択、多様な履修方法を可能にする 地域の多様なニーズ(社会人のリカレント教育や地域の生涯学習需要)にも応えるとしています。本学はこのコンセプトの実現を、コース制を廃止し「ユニット自由選択制」を導入 「男女共学」への移行 「社会人導入」が目的の大手前シテカレッジ(OCC)の設置で図ろうとしました。

### 「ユニット自由選択制」導入

「ユニット自由選択制」は大学・短期大学共通で導入されている履修システムです。関連ある専門教育科目を3～5科目パック化したものに、それぞれ名称を付け「ユニット」と呼んでいます。「地域総合科学科」のコンセプト「柔軟な選択、多様な履修方法」を実現するにも、短期大学でも当時約170の開講科目がありました。その組み合わせの複雑さを回避し、コンセプトを実現可能にしたのは「ユニット自由選択制」です。現在、短期大学では33のユニットがあり学生の時間割作成に参考となる基本的なユニット組み合わせ例(履修モデル)は、昨年度再検討され現在21あります。

### 資格取得

改組を機会に取得できる資格を大幅に増加しました。以前の生活文化学科では12の資格取得が可能でしたが、現在では25にもなります。資格も40単位を必要とするものから1科目を履修すれば受験可能なものまで様々です。学生にはまず簡単な資格取得を身近な目標とし、合格すれば順次ステップアップすることを推奨しています。また、資格取得による単位認定制度も設けました。

### 市場原理の受講生数

「柔軟な選択、多様な履修方法」を学生に保証するわけですから、受講生が偏り受講できない学生が出るのが想定されます。そのため毎年1月頃「入学前オリエンテーション」を開催し「ユニット自由選択制」を説明した後、履修ユニットの計画表を提出させています。学生には早くから本学での学習を考える機会となり、また本学は受講生数の偏りを事前から察知し増クラスなどの対応を4月までに図ります。

### 長期履修生制度

効果的なユニットの組み合わせを保証するために、曜日によって開講ユニットを変える「曜日ユニット制」を考案しました。この「曜日ユニット制」からは思わぬアイデアが生まれました。出校曜日を確定できる「長期履修生制度」です。働きながら学ぶことも計画的に行え、週3日、3年間で短期大学を卒業できます。今年度は7名が入学しました。

### 新ユニットの開設

前掲の表で判るように、平成18年度入学生数は前年度より24名減少します。「ユニット自由選択制」を導入したものの、新しい分野の開拓には至っておらず、当初は履修システムを変更しただけとも言えます。ただし履修の自由度を広げただけで入学生が増加したとも言えるのです。この時に新規開設したのが「ブライダル」と「ビューティ」の2つのユニットです。これが功を奏したのか次年度入学生は36名増加します。

### 第三者評価

本学は「第三者評価」を平成19年度に受けました。適格認定もされ評価結果も悪くありませんでしたが、教育課程について次の1点のみ指摘されました。「短期大学は教養を培うという使命を担っているので、必要な教養については十分に研究されたい。」です。この原因は「地域総合科学科」のコンセプト「特定の分野に限定せず多彩な授業科目を開講する」とすれば、従来の一般教養科目という概念もなくなり、「地域総合科学科」自体が教養教育(リベラルアーツ)学科と考えると答えたからです。本学の教養教育については、下記の汎用能力育成が課題となった今、両者を関係づけて考えています。

育成する汎用能力( Otemae Competency )

大学、短期大学双方が育成する目標として、6つの汎用能力を平成20年度に発表しました。その6項目とは、短期大学ではコミュニケーション力( Communication )プレゼンテーション力( Presentation )文章能力( Language skill )芸術的センス( Artistic Sense )チームワーク( Teamwork )自己管理能力( Self-control )で、頭文字をとって“C-PLATS”と呼んでいます。この汎用能力育成は全授業科目において展開し、成果は学生自身が自己採点する仕組みになっています。しかし、本当に仏に魂を入れていくのはこれからです。

就職力の向上

本学の就職率は右肩上がりに推移していたのですが、平成21年度の就職率は我が国の経済状況を反映し減少に転じました。就職率・進学率は、本学での教育の成果として数字で表せる重要なものです。入口の入学者数は逆境にも耐えて頑張っているのですが、出口の就職率は踏ん張る力が弱いように思えます。やはりその力を付けられるのも教育力です。

短期大学ではこの就職力の向上を少なくとも今後3年間の中期計画の目標にしています。そのために、まずは22年度から学長担当の「ライフデザイン論」の必修化、またその中にキャリアサポート室主担のキャリア教育を5回盛り込んでいます。またクラス担任制の「フォーラム」では、すべての授業を共通の就職に役立つ教材を使用し運営することとしました。

以上のように大きなことだけを記しましたが、これからも本学教育課程の学びの幅はニーズを求めて広がっていくと思えます。反面、本学の教育課程の課題、目標は“C-PLATS”6つの汎用能力の育成、本学の教養教育の再検討、そして就職率の向上と、どのようなカリキュラムでも内在する従来からの基本的な事項になっています。外見は時代と同調し先駆性のあるように映りますが、内面は地味ではあるが普遍的なものを重要視している姿勢とも言えます。あくまでも推測ですが、このような外柔内剛の教育機関が社会的ニーズを確保し持続するのもかもしれません。